

9月25日作柄、岩手・宮城が「良」

作況102、収穫量683万ト

東北関東中心に作付1万7千畝増

農水省は11日、9月25日現在でみた令和6年産水稻の作柄概況を発表した。全国作況102の「やや良」を見込んでいる。需要増などで北日本を中心に主食用回帰・増産志向が強まっていた中、主食用作付けが前年比1万7000畝も増えていたほか、北日本を中心とする豊作見込みが濃厚となった。作付増と豊作で主食用予想収穫量は前年比22万3000ト(3.4%)増の683万3000トに。端境期を中心に品薄感が近年になく強まったあと、新米生産量は基本指針669万トを14万トほど上回る増産傾向が見込まれる状況になった。

8年ぶり豊作加わり22万ト増

農水省の作柄調査で収穫量算定に用いる選別ふるい目幅で、平成26年産までは作況基準にも使われていた1.70ミリの基準の10ミリの予想収量は全国値544キロ。平年収量537キロより7キロ多い。戦後最高の大豊作・平成6年産(全国作況109)や、全国的に豊作だった平成28年産(同103)と並ぶ稲作史上最高収量で推移している。全国作況指数が豊作に振れるのは28年産以来8年ぶりだ。

一方、作況基準となる農家使用ふるい目幅収量(都道府県別に1.80~1.90ミリ)は平年収量513キロに対して同日現在で521キロ。作況102の「やや良」が見込まれる。ただし作況基準収量が次回調査(10月25日現在)で520キロに1キロ減るだけで101の「平年並み」に下がる瀬戸際にあるのも事実。1.70ミリ収量では過去最高だが、作況基準収量では「平年作に最も近いギリギリ豊作」で推移している。

今年は東・西日本を中心として昨年に迫る全国的猛暑・残暑となった中、温暖化が増収・豊作に作用しやすい北日本の豊作が際立つ。農業地域別では、北海道と東北が103(沖縄も103)、関東・東山が102で「やや良」の豊作地域となった。都道府県別では、▷作況106以上「良」=岩手・宮城の2県▷102~105「やや良」=青森・秋田・福島・茨城・千葉・広島・熊本など19道府県▽▷99~101「平年並み」=19都県▷95~98「やや不良」=山形・新潟・福岡・佐賀など7県。

北海道は6年連続豊作(103~108=平均105)となり、道内全9地帯が「やや良~良」の豊作に。また東北6県は、全21地帯中16地帯が「やや良~良」。温暖化猛暑における「北の豊作」があらためて浮き彫りとなった。東北では、太平洋側の岩手・宮城で顕著な豊作が見込まれる。とくに宮城は2年連続で全国最高指数(5年産105、6年産107)をマークし、地帯別でも全4地帯が作柄「良」。岩手は4地帯中3地帯が「良」で推移する。

一方、東北でも山形は97の「やや不良」。7月下旬の記録的大雨で水稻冠水・土砂流入など深刻な影響を受けた最上と庄内いずれも94の「不良」に落ち込んだ。6年産で作柄「不良」地帯となったのは全国でも最上・庄内の2地帯だけだ。8月作柄は実測調査なしの気象・衛星データ等に基づくデータ予測だったが、今回の9月25日現在で初めて実測調査となり、8月15日現在「やや良」豊作→9月

25日現在「やや不良」不作へと大きく転じた。山形に隣接する全国最大コメ産地・新潟も98の「やや不良」見込みで、佐渡95、下越97が見込まれる。

なお東北最大コメ産地・秋田でも大雨被害が発生したが、9月作柄は102の「やや良」。同県では全農秋田県本部が7月大雨等による不作減収と再生産を理由に概算金再引き上げに踏み切った状況があり、農水作況と現場の作柄実態のとらえ方にギャップがみられる。

登熟緩慢、刈遅れ懸念

8月作柄で全国唯一「良」（106以上）の大豊作が見込まれた青森も9月作柄では103の「やや良」とどまった。県内JAでは、管内の作柄について「5月の低温で分けつが少なく、それが響いて籾数が増えていない。最終的に減収に響いたようで、もともと『106以上もあるわけない』という現場のムードが強かった。『平年並み以上穫れた』という声も一部あるが、半俵～1俵程度の減収という声が多く、ならずと100～101程度。秋の天候不良で最後の登熟がダラダラと緩慢に進み、刈り遅れ傾向も作柄に良くない」と話す。

なお全国作付けの3割を占める東北の9月25日現在刈取済み面積は、猛暑で生育が早い年でも5割前後にとどまる。台風や秋雨前線の影響など秋の天候不良による刈り遅れの影響が聞かれ、作況基準収量が全国値で1%以上落ち、「豊作→平年作」に下方修正される可能性がある。一方で東・西日本では今月半ばになっても残暑が続き、西日本遅場作柄等を上振れさせる可能性もはらみ、次回10月25日作柄に向けては地域によって流動的な側面がある。

① 令和6年産水稻の主食用米生産動向（9月25日現在、全国・農業地域別）

単位:面積 ha、収量 kg、収穫量 t

	作付見			作況 指数	10a		予 想		
	込面積	前年差	前年比		収量	前年差	収穫量	前年差	前年比
全国	1,259,000	+17,000	+1.4%	102	544	+11	6,833,000	+223,000	+3.4%
北海道	83,700	+1,500	+1.8%	103	586	+7	490,500	+14,600	+3.1%
東北	319,800	+10,600	+3.4%	103	584	+15	1,868,000	+109,000	+6.2%
北陸	175,800	+1,800	+1.0%	99	536	+23	940,400	+46,400	+5.2%
関東・東山	235,000	+7,500	+3.3%	102	549	+5	1,290,000	+52,000	+4.2%
東海	83,400	▲900	▲1.1%	99	494	+0	412,200	▲4,300	▲1.0%
近畿	90,600	▲600	▲0.7%	100	510	+7	461,700	+3,900	+0.9%
中国	90,400	▲500	▲0.6%	101	521	+7	471,000	+3,200	+0.7%
四国	42,300	▲400	▲0.9%	101	484	+2	205,200	▲300	▲0.1%
九州	138,200	▲1,300	▲0.9%	100	501	+4	692,600	▲1,200	▲0.2%
沖縄	557	+13	+2.4%	103	322	+1	1,790	+40	+2.3%

(注) 作況指数は、都道府県別の選別ふるい目幅1.80～1.90mm基準（2年産からの適用）で算定したもの。10a収量と予想収穫量は1.70mm基準（全国一律）を掲載。